栗山町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

栗山町は、道都札幌市に1時間の道央圏に位置し、隣接する岩見沢市、夕張市、由仁町、長沼町とはＪＲもしくは民間路線バスが運行し、地域間を繋いでいる。

町内の公共交通は、平成2年に民間バスの撤退により、町営バスの運行を開始したが、人口減少や自家用車の普及に伴う利用者の減少、燃料費の高騰による運行経費の増嵩など、運営は厳しさを増している。

しかしながら、交通弱者となる高齢者等の交通手段を確保することは必要不可欠であり、とりわけ、南部地区と病院や商業施設などが集中する栗山市街地を結ぶ路線の維持は非常に重要となっている。

平成21年3月に「地域公共交通総合連携計画」を策定し、デマンドバスの実証実験運行を実施したほか、平成24年6月には「地域内フィーダー系統確保維持計画」の策定によるデマンドバスの本格運行、さらに平成28年12月からは市街地を循環するコミュニティバスを本格運行するなど、地域と連携した持続できる効率的で新しい公共交通システムの構築を目指している。

地域公共交通の現況

・ＪＲ室蘭線（栗山駅）
　岩見沢～栗山～苫小牧間
・中央バス（株）
　岩見沢長沼線（岩見沢～栗山～長沼）
　岩見沢栗山線（岩見沢～栗山）
　岩見沢三川線（岩見沢～栗山～由仁・三川）
　都市間高速バス（札幌～栗山～夕張）
・夕鉄バス（株）
　新さっぽろ線①（夕張～栗山～江別～新札幌）
　新さっぽろ線②（夕張～栗山～北広島～新札幌）

・町営バス（町内6路線）
・コミュニティバス（町内市街地）
・スクールバス（町内6路線）

生活交通確保維持改善計画の目標

地域の人口減少に歯止めがかからない傾向であるが、更なる広報周知や地域懇談会等での啓発活動を行い、前年度月平均利用者数を5%上回ることを目標とする。

◆「滝下線」月平均利用者数 227人　　◆「日出線」月平均利用者数 298人
◆コミュニティバス　月平均利用者数 1,558人

協議会開催状況

・令和3年6月10日　第1回協議会（書面開催）を開催
　主な協議事項　地域内フィーダー系統確保維持計画等審議
・令和3年12月22日　第2回協議会（書面開催）を開催
　協議事項　1次評価等審議

令和3年度事業概要

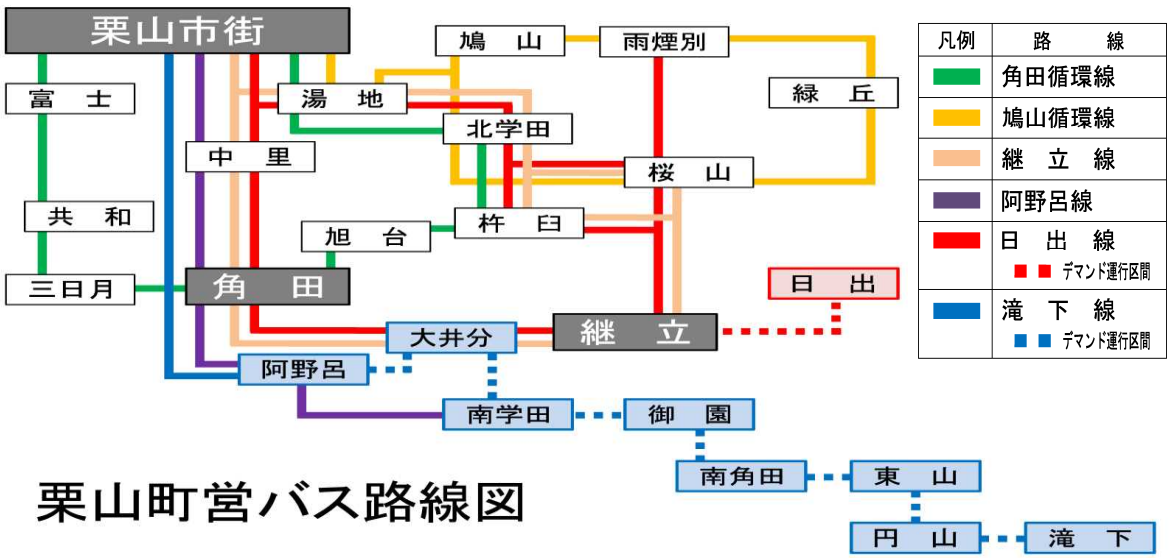
①滝下線	栗山～滝下（23.9km）※デマンド運行　日曜・祝日運休　平日　往復各3便、土曜　往2便、復1便
②日出線（大井分経由）	栗山～大井分～継立～日出（18.8km）※継立～日出間デマンド運行　土曜・日曜・祝日運休　平日　往2便、復1便
③日出線（桜山経由）	栗山～桜山～継立～日出（21.0km）　※継立～日出間デマンド運行　土曜・日曜・祝日運休　平日1便
④日出線（杵臼経由）	栗山～杵臼～継立～日出（18.8km）　※継立～日出間デマンド運行　土曜・日曜・祝日運休　平日1便
⑤コミュニティバス	市街地循環（15.1km）※乗合バス型運行　土曜・日曜・祝日運休
●運賃（全線共通）	1回200円、定期料金 1ヶ月7,200円・3ヶ月20,520円（70歳以上の高齢者、小学生は半額。未就学児は無料。）

令和3年度事業の実施状況

1）プロセス、創意工夫

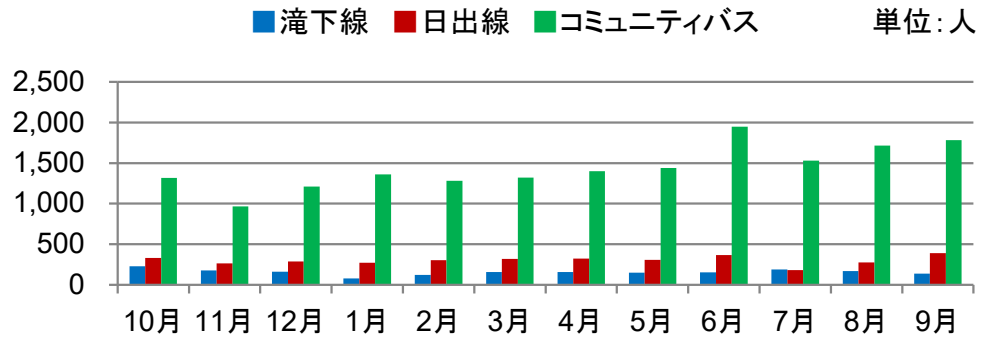
■デマンドバス実証実験運行の実施（平成21年11月～平成24年7月）
■デマンドバス実証実験運行の検証及び見直し（平成24年8月～）
①デマンド運行路線の見直し
【滝下線】滝下地区から栗山市街地への直行便に変更。　※デマンド対象区間の拡大（滝下～阿野呂間）
【日出線】日出地区から栗山市街地を一路線とし、乗継を廃止。　※デマンド区間（日出～継立間）
②滝下線において効率的な運行が可能となる小型ワゴンバスを導入
③デマンド予約受付先を継立町内連合会から運行委託事業者に変更。　※受付時間の延長及び土日の受付開始
■地域説明会の実施（町民を対象とした意見・要望等の把握）※町民懇談会に合わせ、聞き取り調査を実施。
■利用者意向等調査の実施（利用者を対象とした意見・要望等の把握）※バス利用時に合わせ、聞き取り調査を実施。
■市街地循環コミュニティバス試験運行の実施（平成27年12月～平成28年10月）
市街地間における移動手段の確保及び町営バス全路線との連携による利便性の向上など、地域公共交通システムの確立を図るための試験運行
■市街地循環コミュニティバス本格運行の開始（平成28年12月～）
本格運行開始後、月平均の目標利用者数は達成しているものの更なる利便性を高めるため、町営バス全体における町民アンケートの実施。

2）運行系統



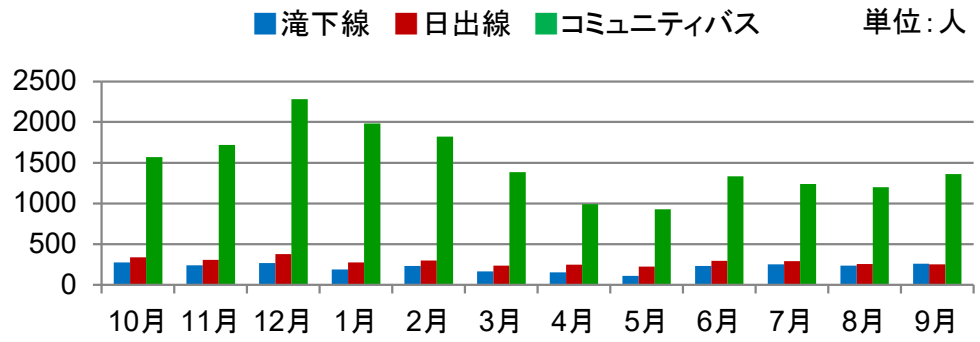
３）利用実績

令和3年度 利用実績（令和2年10月～令和3年9月）



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	月平均
滝下線	228	176	160	80	124	156	157	150	154	191	170	138	157
日出線	323	306	368	182	275	391	330	266	289	273	304	319	302
ｺﾐｭﾆﾃｨﾊﾞｽ	1401	1438	1948	1531	1716	1784	1315	968	1211	1359	1280	1319	1439

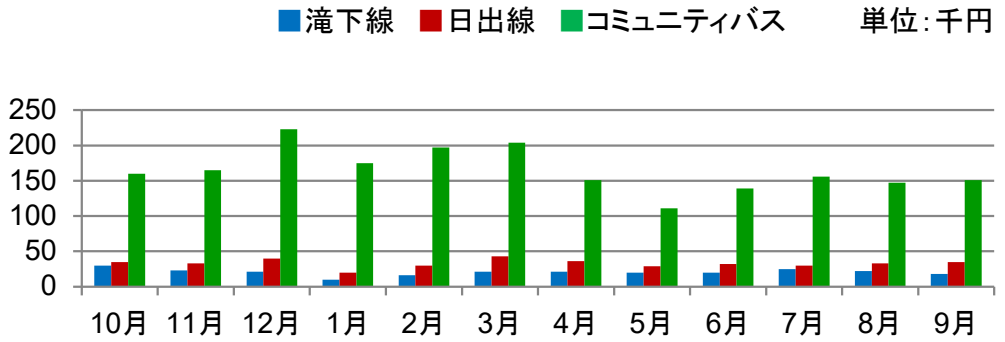
令和2年度 利用実績（令和元年10月～令和2年9月）



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	月平均
滝下線	277	240	266	190	231	165	152	109	232	253	236	258	217
日出線	339	308	377	277	298	235	248	225	297	293	255	250	284
ｺﾐｭﾆﾃｨﾊﾞｽ	1569	1720	2282	1982	1822	1384	992	927	1333	1237	1198	1361	1484

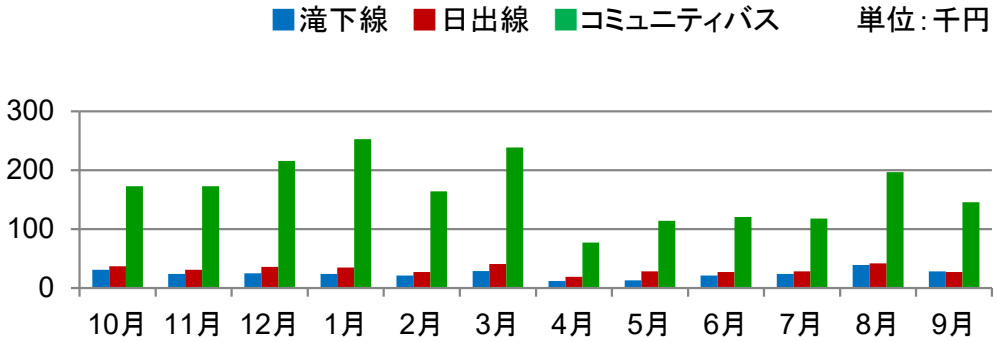
４）収入実績

令和3年度 利用実績（令和2年10月～令和3年9月）



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	月平均
滝下線	30	23	21	10	16	21	21	20	20	25	22	18	21
日出線	35	33	40	20	30	43	36	29	32	30	33	35	33
ｺﾐｭﾆﾃｨﾊﾞｽ	160	165	223	175	197	204	151	111	139	156	147	151	165

令和2年度 利用実績（令和元年10月～令和2年9月）



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	月平均
滝下線	31	24	25	24	21	29	12	13	21	24	39	28	24
日出線	37	31	36	35	27	41	19	28	27	28	42	27	32
ｺﾐｭﾆﾃｨﾊﾞｽ	173	173	216	253	164	239	77	114	121	118	197	146	166

5）事業実施の適切性

計画どおり事業は適切に実施された。

6）目標・効果達成状況

本計画の目標としている「平成28年10月から平成29年9月までの月平均利用者数を維持する」に対し、滝下線、日出線ともに実績は目標を下回る結果となった。本路線の運行区域は、特に人口減少が著しく、利用者数も減少傾向ではあるが、南部地区における高齢者等の生活を支える交通手段が確保された。（利用者目標は前年度対比5%増）

また、平成28年12月より本格運行した市街地を循環するコミュニティバスの月平均利用者数は、年々増加傾向であったが、コロナ禍における外出自粛の影響もあり、前年度対比5%増を目標とした1,558人を119人下回る結果となった。

◆利用実績（令和3年度：令和2年10月から令和3年9月）

【滝下線】月平均利用者数　目標227人　実績157人（▲70人）

【日出線】月平均利用者数　目標298人　実績302人（＋4人）

【ｺﾐｭﾆﾃｨﾊﾞｽ】月平均利用者数　目標1,558人　実績1,439人（▲119人）

7）事業の今後の改善点

人口減少、農村部における過疎化が著しい現状の中、本町の主要地域間を結ぶ公共交通は、以前にも増して厳しい状況にある。

しかしながら、これらの維持・確保は地域住民の日常生活にとって必要不可欠であり、利用者数は減少傾向にあるが、引き続きニーズの把握と、効率的・効果的運行体制の確立に向け、取り組みを推進していく。

また、平成28年12月より本格運行しているコミュニティバスは、年々増加傾向であったが、コロナ禍による外出自粛の影響により、目標の利用者数を下回る結果であった。今後も引き続き、更なる利用者ニーズの視点に立った運行となるよう啓発活動等を継続する。さらに、平成31年2月に実施したバス交通に関する町民アンケート結果の分析を行い、より良い交通体系の見直しを図ることとする。

8）地方運輸局における二次評価結果

（令和４年度分と併せて評価）